

# やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

|         |                  |
|---------|------------------|
| 誌名      | やぶなべ会報           |
| 号/発行年/頁 | 9 / 1992 / 25-33 |
| タイトル    | 特別記録 ミレーナ嬢の訪問    |
| 著者名     | 蝦名憲              |

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

# 特別記録

## ミレーナ嬢の訪問

会長 蝦 名 憲

### はじめに

最大風速、被害金額など今世紀最大の台風19号。愛称“ミレーナ”が日本列島を訪問した。これまで最大の風台風として語り伝えられた“洞爺丸台風”もあっさりかぶとを脱いだ格好の猛烈な個性の持ち主だった。

'92. 1. 14 “寿司のまるやま”で開いたやぶなべ会の新年会兼幹事会で、この台風が話題となり“このような‘自然環境での大事件’は、今後の環境に何らかの変化を及ぼす可能性があり、また将来の観察、調査の参考になることも予想されることから、“記録を残しておこう”ということになった。

そこで、東奥日報紙に掲載された記事と平成3年10月11日に発行された青森県農業気象災害速報をもとに、その概要をまとめることにした。

なお、紙面の関係から相当部分を剖愛せざるをえなかったので、後日、別に詳細な記録を編集する予定である。

### 台風の渦中から

#### 災害見舞いへの返信

前略 先日は丁寧なお手紙と懐かしい写真を有難うございました。私どものところでは幸い住宅には被害はありませんでしたが、収穫を1ヵ月後に控えた裏庭の柿の木が3本、実の重さも手伝って根こそぎ倒れました。また、梅、栗、ざくろなどが倒れたり、枝が千切れたり樹木は相当痛められました。

それにしても自然の力は恐ろしく、人間なんて日頃は自然を征服するとか保護するなんて、生意気なことを言っていますが、自然がいったん地震、噴火、台風など日頃にはない顔を出せば何もなすすべを知らない無力な生物になってしまうようです。

あの日、9月28日は前日から“洞爺丸台風に似た風台風で、移動速度は時速60キロ以上と非常に速い”との情報があったので4時前に目覚め、家の外の様子をうかがっていました。その頃は

ほとんど風はなく、これから台風がくるとはとても信じられないほど穏やかでした。まさに嵐の前の静けさとはこのことでした。ちょうど4時ころになると、ザアッと相当強い雨が降り出し5時頃まで続きました。その雨も上がり、また静寂に戻り、ひよっとすれば台風はコースを変えたのかなと思う間もなく突然、ザアと強風が吹き出しました。風は見る間に強くなり、家全体がぶるぶると震えて今にもばらばらに飛び散るのではないかと思うほどです。障子をあけて二階から外を見ました。長雨で地面が柔らかくなっていたため、根の弱い木は何度か突風に揺さぶられているうちに力尽きて次々と横倒しになり、千切れた小枝や葉が真横に飛んでいきます。温室用のビニールや長尺トタン、ガラス、木片も飛んでいます。電線にはそうした飛来したものが絡まり風に煽られています。電柱には大きなトタンの固まりが絡み付いて、まるでビニールのように風に揉まれています。



外はもう明るくなっていたので6時頃写したのが上の写真です。木々はもう横倒しになり、右上の家の屋根のトタンは飛んでしまってほとんど付いていないのがお分かりかと思います。トタンの一部は電柱の中ほどに引っ掛かっています。何時の間にか電気は消えていて、テレビ、ラジオは役に立ちません（携帯用ラジオは電池が切れていた）。電話も通じません。新聞も来ないので、情報はまったく伝わってきません。自分がどういう状況に置かれているのか分からないのは、不安な心理を煽るものですね。JRの電車も見えませんし、自動車も走っていません。町全体がじっと息をのんで台風の過ぎ去るのをひたすら待っているような感じでした。

8時頃になると、風も幾分弱まったようでしたので、女一人で心細いことだろうと妻と二人で浅虫の義姉のところへ行くことにしました。玄関から一歩外へ出るとフェーン現象なのでしょうか、まるで冷凍庫から外へ出たときのように急にボツと暑く感じ、メガネが瞬時に曇ってしまったのには驚きました。

小路から幹線へ出てみますと、道路は飛来した木片、ガラス、トタンなどが散乱して走れないほどでした。場所によっては、電柱が傾いていたり、電線に広告塔が寄り掛かったり、屋根がほとんどなくなっている家もかなりありました。

浅虫温泉の入口付近では青森方向へ向かう車が、向い風で走れなくなって連らなって止まっていた。また、新聞運搬車が一台横転していました。

海は沸騰したように波立っていて、海面から3mぐらいの高さまで、潮の霧の帯ができ、その帯は防波堤を越えて山まで伸びていました。湯の島の木々は風で叩きのめされた揚げ匂、潮やけで全く生気を失っています。

浅虫でも、植込みの松が教本倒れていたり、シャッターが外れてぼたぼたしているところがあったり、窓が割れてモルタルが道路に散乱している家もありました。ここでも相当の被害があったようですが、義姉のところは幸いにも何事ありませんでした。

7時頃、浅虫消防分団屯所の二階の窓を修理中の消防団員が、風にあおられて落下し名誉の戦死をしたとのこと。ご冥福を祈ります。

帰宅して間もなく9時30分頃、電話が鳴りました。久栗坂に住んでいる義弟からで、せっぱ詰まった声で、“実は、今日海外へ研修出張に出ることになっていて、10時まで市教委研修所（栄町）に集合するようにといま電話連絡を受けたが、ハイヤーは予定がつかない状態だし、電車、バスも動いていないので、集合先へ行く手段がない。なんとか車で送ってもらえないか”とのことでした。

集合指定時刻までに30分で行き着けるかどうかかわからないが、やってみようと電話を切り、行動を起こしました。この時間になると朝よりは半分風も弱まり、走行にはさほど支障はなくなっていました。交差点の信号機は全部消え、人も車もあまり動いていませんでした。可能な限りの運転をして、どうやら10時丁度に到着することができ胸をなで下ろしたものです。

その日は、終戦後40数年ぶりに電気のない夜を過ごしました。冷蔵庫も用をなさないし、テレビも見れない、風呂にも入れない、真っ暗な、みじめな夜でした。

我が家は幸いにもこの日の夜中に通電しましたが、県内では高圧送電線が切れたり、電柱の折損被害が多く、ひどいところは5日間も電気がつかないところもあったようです。

それよりも何よりも農家の惨状は目を覆うばかりです。ほとんどのリンゴは落果し、木は倒れたり、折れたり、裂けたりで、元の園地に戻るには10年はかかるだろうといわれています。

今年はリンゴの作柄もよく喜んでた矢先でしたので、誰もががっかりした表情でしたが、気を取り直して身の回りを片付けて、また出稼ぎに行きました。野積みそのままの落果リンゴは腐り始めたり、ネズミに食い荒されたりで、加工に回すにも処理能力に限界があるとのことで八方塞がりのようです。また、雨続きで稲の乾燥も悪く、野菜も不作ときは全く泣くに泣けないようです。先を悲観して自殺した人もいました。

我が家の倒木は29日の日曜日に人を頼んで切ってしまいました。屋根を取られた家では、修理をしようにも全国規模の災害のため修理材料が不足し、また大工、屋根屋の手配ができず、応急処置の青いシートを被せたままどうにもならないようです。

また、台風の後に来客を案内して八甲田山を通り十和田湖まで行ってきましたが、奥入瀬溪流では倒木が5百本ほどにのぼり、道路上のものはさすが片付けてありましたが、それ以外のものは環境庁に処理の申請をして許可があってからでなければ手をつけられないとのことでした。こういうこともあり、今年は木々の葉が痛んで紅葉はあまり期待できないようです。…以下省略

## 新聞の報道記事

吹き荒れる突風で早朝から揺り起こされた県民。街路樹は倒れ、屋根のトタンは散乱する惨状に茫然とたたずむ人のわきを、飛来物に注意しながら恐る恐る出勤する車の列が続いた。

青森市内の道路は停電で信号が停止し、朝のラッシュ時の交差点は大混雑。同市古館では吹き飛んだ屋根が電柱3本を折って道路をふさぎ交通を寸断。同市旭町でも電柱にからまった屋根の撤去に手間取っている。街路樹は根こそぎ吹き飛ばされ、境内の木がすべて倒れた神社もあった。

また、同市問屋町では事業所ビルの玄関ロビーガラスが壊れ、駐車中の乗用車の窓ガラスも散乱していた。

弘前市では土手町の商店街でショッピングウィンドーが壊れた店が相次ぎ、開店前に途方にくれる店主の姿があちこちで見られた。(9.28東奥日報夕刊)

土曜日の明け方県内を襲ったカゼ台風。電気が止まった。朝食の支度ができない。スーパーはろうそく営業。午後から開店したが、食パンはたちまち売り切れ。肉や魚の生鮮食品はケースから姿を消した。レジではパートの女子職員がもどかしげに電卓のキーを押していた。水洗トイレが使えない世帯がでた。町の住民は文化生活のもろさを知らされた。

青森市幸畑団地は28日午前7時前に電気が切れた。すでにあちこちの家のテレビアンテナが曲ったり、千切れていた。

団地内のスーパーでは早朝の台風で休業を検討したが「団地住民の問い合わせや要望で午後から開店した」という。

夕方5時すぎ。売り場にほの明かりを点すのがローソク。大根を輪切りにつまようじを立てた即製のローソク台を売り場の通路に約40個立てた。

買い物客は薄明かりの中、ローソク台を倒さないようにゆっくり、恐々とした足取りで品定め。停電で冷蔵装置が使えないため、鮮魚や精肉売り場には品物がない。懐中電燈用の乾電池やローソクは夕方までに売り切れた。それを知らずに次々と訪れるお客さん。品切れとわかると「仕方がない」といった表情で次の売り場へ。

店長は「パンや各種の惣菜は早めに売り切れました。ソーセージ、カップラーメン、ポテト

チップスはもちろん、すぐ食べられる食品も売れてしまいました」

レジスターも動かない。パート職員が2人1組になって電卓を使って計算。一人が値段を読み上げ、もう一人が手書きで伝票に書き込む。係の女子職員は「お釣りを間違えないように気を使います」といつになく慎重な捌き方だ。

「手書きの伝票は、後でレジスターに打ち込まないといけない」と、いつ電気がつくのか、帰宅が遅くなりほしくないかと、気をもんでいた。

一方、弘前市内のほとんどの商店はシャッターを締め切ったままで、まるでゴーストタウンのよう。

その中で、電気店では懐中電燈と電池が飛ぶように売れた。「こんなに売れることなんてない。今日一日で1年分かも」。近くの医院から大量注文もあった。

弘大医学部付属病院、市民病院などの大病院は自家発電装置による照明で外来患者に対応した。

一方、「暗がりの中で4個の懐中電燈で診療しました」と弘前眼科病院。

また、弁当屋には電話予約が相次いだ。「ガス炊飯なのでなんとか対応したんですが、懐中電燈を照らしての作業」と店員。すぐできるもののメニューがほとんどで、てんてこ舞いだった。

水道水をポンプアップしている高層住宅は断水に悩まされた。城南市営住宅では66世帯が集会所にある一つの蛇口に殺到。桔梗野団地など3カ所には自衛隊による給水措置が取られ、千リットルを供給。住民らはバケツ、やかん、クーラーなどにためてホッと一息ついていた。

弘前市内では午前5時過ぎ、突風が吹き始めた。アップルロードへ向かおうと車を進めるが、トタンや看板が次々と飛んでくる。電線はゴムのように延びては触れ合い、火花が散っている。午前5時半、アップルロードでは畑一面に落ちたリングが敷き詰められている。突風が吹くたびに、ポトツ、ポトツと鈍い音を立てて、色づき始めたリングが地面にたたきつけられていく。根こそぎ地面からむしり取られ、根が完全に空を向いたリングの木が無残な姿をさらしている。猛烈な南風に乗って、無数の反射シートが銀色に光りながら舞っている。(9.29東奥日報朝刊)

## 台風19号の道筋とその特徴

一般に台風の進路が日本海コースを取ると「風台風」、太平洋コースを取ると「雨台風」になることが多い。また、台風は進行方向右側がより風が強く、日本海コースでは右側に当たる日本列島へ大きな被害をもたらす。これは、台風は反時計廻りに渦巻き、進行方向右側では台風自身の渦巻く流れと台風を移動させる流れの方向が同じになり、風が強さを増すためである。

台風19号は、9月16日9時、マーシャル諸島附近で発生した。中心気圧1000mb、中心附近の最

大風速18m/sであった。この台風は、24日21時には、那覇市の南約650キロに達し、「大型で非常に強い」台風となった。26日18時、久米島の西南約110キロの海上で向きを北にかえ、以後、やや東よりに進行方向をとりながら北上し続けた。27日9時には、鹿児島市の西南西約340キロの海上を進み、27日16時過ぎに長崎県佐世保市の南に上陸した。中心気圧935mb、最大風速50m/sで上陸時の中心気圧としては観測史上4位のタイ記録となった。その後、台風19号は九州の北部をかすめて日本海に入り、28日午前0時には、輪島の西約270キロの海上を時速80キロと速度を早めて北上してきた。台風経路図の強風・暴風域によれば、28日の1時には青森県の日本海側が強風圏に入り、3時には日本海側の一部が暴風域にかかり、4時には、県内全域が暴風域内となった。台風は、6時には、深浦の西約130キロの海上に達した。中心気圧955mb、最大風速40m/s、「大型で強い」台風に変わり時速90キロの早さで北東進した。更に速度を早め、28日8時前に北海道の渡島半島に上陸した。上陸後、横断するかたちで北海道を通過し、28日の15時に千島近海で温帯低気圧となった。

## 特 徴

- ①非常に強い勢力のまま日本に上陸したこと。
- ②その後も衰えず極めて速い速度で日本海を北上したこと。
- ③昭和29年9月26日から27日の洞爺丸台風と進路や速度が極めて似ていること。
- ④青森県では典型的な風台風となり、強風による被害が相次いだこと。
- ⑤フェーン現象が起き、三八地方の三沢、十和田、八戸、三戸で長高気温が30度を超える真夏日を記録したこと。

(参考) 青森市の気温の推移 (C)

| 3時   | 4時   | 5時   | 6時   | 7時   | 8時   | 9時   | 10時  | 11時  | 12時  |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 19.0 | 26.2 | 21.3 | 29.3 | 25.9 | 25.5 | 25.4 | 21.2 | 19.6 | 18.9 |

## 県内の風の状況

青森県内では、28日の早朝に突然、猛烈な暴風となった。引き続き県内全域で突風を伴う風速15m/s以上の強風が吹き荒れ10時頃まで続いた。その後もやや強い風が吹き続いたが夕方すぎにはおさまった。最大風速は、青森で6時10分に29.0m/s、黒石と六ヶ所で7時に18m/s、弘前で6時に14m/sを記録した。最大瞬間風速は、青森で6時5分に53.9m/s、八戸で6時46分に38.8m/sを記録した。

## 県内での被害状況

### 死者

台風19号による県内の死者は8人となった。（全国の死者53人不明者3人）

### 学校の休校

台風の影響で県内の学校は505校の小学校のうち、213校が休校。11校が短縮授業となった。中学校は208校のうち86校が休校、短縮授業となったのは4校。県立高校と特殊学校は178校のうち55校が休校し、7校が短縮授業となった。私立高校は8校が休校した。

津軽地方の学校は30日も休校、授業短縮が相次いだ。休校の理由は「生徒の家はリンゴ農家が大部分なので、作業の手伝いを考えた。学校もガラスが割れるなど授業ができる状態ではない」という学校が多い。また、意外な弱点をさらしたのは水洗トイレ。「土曜の朝からずっと停電で、高架槽に水を上げるポンプが作動しない。トイレが使えないのが休校の直接の原因」「高架槽の水が尽きてしまい、水が全く出ない。トイレを我慢させるわけにもいかず、登校した生徒を帰宅させた」という学校が相次いだ。（9.29東奥日報朝刊）

### 交通

JR線は強風で倒された木や吹き飛んだ建物が線路をふさぎ、東北本線小湊－浅虫温泉間、野辺地－乙供間、奥羽本線青森－新青森間、津軽線油川－新油川信号所間が不通。また、東北本線野辺地－浅虫温泉間、津軽線油川附近で停電となった。

列車は八戸線を除き運休状態。奥羽本線は27日夜から、津軽、大湊、五能線は28日始発から運休。東北本線は午前5時27分青森発盛岡行きの「はつかり2号」だけがかろうじて走った。

空の便は午前中、全面欠航。青森空港は東京、大阪、三沢空港は東京、札幌各往復の計10便が欠航した。

海の便も大荒れ。東日本フェリーは県内7航路、八戸－苫小牧間のシルバーフェリーは27日夜から欠航。

東北自動車道は午前6時50分に青森－十和田間、同7時45分に十和田－滝沢間と八戸－安代間が強風のため通行止。日本道路公団仙台管理局青森管理事務所では「散乱物回収など午前中は作業は無理」という。

青森市営バス、弘南バス、下北バスも始発からしばらく全面運休した。

### 漁港

八戸港には、台風を避けた貨物船など約280隻が入港、停泊し海況の好転を待った。



## 漁 場

台風19号の影響で養殖ホタテが、大きな打撃を受けていた。平内漁協茂浦支所によると28日午後、海上保安部から区画漁業圏内にソビエトや韓国の大型外国船や国内船がはいりこんでいるとの通報があった。このため、同支所は29日早朝漁船約90隻を一斉に出し、組合員らと養殖ホタテの状況を見て廻ったところ、約50カ統の養殖施設が壊れていることが判明した。

施設は船に引きずられた模様で、ホタテ貝の入った養殖かごやかごを吊るすロープが折損、破壊されたり、資材などが絡まり、だんご状態になっていた。

現在のホタテの成長は稚貝、半生貝の状態、被害の状況から見て養殖施設の利用は困難と見られている。

また、下北郡川内町漁協でも避難船によりホタテ養殖施設25カ統に被害がでた。

## 通信、電力

NTT青森支店によると、28日午前10時半現在、引き込み線の断線などで、県内で408件の電話が不通になった。夕方までには復旧する見込み。弘前支店管内では155件、青森同108件が不通になっており、電柱41本が倒壊する被害が出ている。

電話の不通の申告は30日午前10時現在、県内合計で4千621件、うち2千192件がまだ回復していない。青森地域が202件、弘前地域が千720件、八戸地域が270件で、青森、八戸は同午後3時頃にはおおむね回復の見通しだが、被害の多い弘前は10月1日までずれ込むもよう。

電話の不通は弘前地域で4日までに合計7千300件に達したが、午後7時までに全件が回復した。

電気は樹木倒壊や飛来物による断線が相次ぎ、28日午前10時現在、弘前市内の全戸が停電になったのをはじめ、津軽地方を中心に県内で約16万4千戸が停電した。

東北電力青森支店によると午前10時現在の被害状況は、弘前営業所管内約7万9千戸のうち弘前市全戸を含む約6万7千4百戸が停電したほか、青森市内の半数近い約4万5千9百戸の送電がストップ。黒石営業所管内では2万5千戸、八戸同5千9百戸、十和田同1万9千5百戸、三沢同2千3百戸、五所川原同2千3百戸が停電した。

台風19号による停電は10月4日、弘前、黒石営業所管内合わせ、引き込み線の断線などが数10件残っていたが、東北電力青森支店によると、申告のあった分については午後7時までに全面復旧した。

## 農産物

リンゴ落果などの被害は、津軽地方を中心に圏内全域に及び、壊滅的な被害を受けた地域も出た。今後、調査が進むにつれ、被害は更に進む見込みで、量、金額とも史上最悪の被害となることが確実視されている。（落果32万トン）

県内及び市町村ではそれぞれ被害対策本部を設け、関係省庁に被害の惨状を訴えるとともに、住民の救済対策を講じている。

国は、激甚被害法と天災融資法の発動を決定した。

## 台風19号記録（県内）のまとめ

最大瞬間風速 53.9メートル 青森市9月28日午前6時5分  
（非公式） 60メートル以上 黒石市役所午前5時36分以降振切れ

被害総額 1088億7600万円  
うち農林関係 846億3600万円  
うちリンゴ関係 741億7000万円

被害住宅 全壊 280戸  
半壊 2079戸  
一部破損 1万2006戸

（以上県集計10月9日現在）

このように台風19号は今世紀最大の風台風として猛威をふるった。家を壊された人、家族を失った人、農産物で被害を受けた方々、とりわけリンゴ園経営者はじめ関係者には心からお見舞い申し上げます。

今回の台風災害では、県民誰でも多少の損害、痛手を負ったのではないのでしょうか。

しかし、振り返ってみれば、苦しいとき、困ったときこそ人間はお互いに助け合うことを思い出すようです。協力し合ってこの難関を突破しましょう。

また、自然が与えてくれた試練を教訓として生かし、今後同じような災害を受けても被害を最小限度に食い止める工夫をしましょう。

よりよい明日のために！！